

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。

中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。

集中豪雨は突発的に起きるので予測が困難であり、時に大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日ごろから備えておくことよいか、被害を未然に防ぐ知識などをご紹介いたします。

少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。

【知る】

●地域の状況を知る

お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておくことが大事。自主防災組織などで危険な場

所、避難場所、避難経路などを確認・点検し、落ち合う場所を決めておく。

●気象情報など情報の入手

台風の接近時や雨が降り続いたりした時などは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意する。

【備える】

●非常持ち出し品の確認

飲料水や食料、避難のために必要なもの（懐中電灯、ラジオ、衣類など）、個人ごとの必需品（持病の薬、生理用品など）。

●住まいの点検

- ・瓦やアンテナは固定されているか。
- ・雨どいが詰まってないか。
- ・外壁に亀裂はないか。
- ・窓ガラスにひび割れ、がたつきはないか。

【行動する】

●風水害時の避難の注意点

- ・動きやすく安全な服装で、足元は運動靴にする。
- ・道路などが冠水したら側溝などが確認できないので、杖で足元を確認しながら歩く。
- ・単独では行動せず、家族や近所の人と行動する。
- ・避難指示などが出ていなくても危険を感じたらすぐ避難する。
- ・避難することが危険である場合は、自宅の少しでも安全な場所に避難する。

▽避難の呼びかけを待つて行動する

のではなく、危険を早めに察知し、正しい情報に基づき早めの対応を心がけましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが被害の抑制につながります。

雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨が降ると、地割れや地表が流されたり、けがれ崩れの危険が予想されます。



1時間雨量
5～15ミリ
・地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる。



1時間雨量
15～20ミリ
・地面一面に水たまりができ、雨の音で話が聞きとれない。



1時間雨量
20～30ミリ
・いわゆる土砂降り状態で下水があふれる。



1時間雨量
30ミリ以上
・バケツをひっくり返したような雨が降る。

○お問い合わせ

【本庁】情報防災課 消防防災係

☎43-2188

【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係

☎55-3113

LPガス発電機寄贈式

株式会社大塚商会からLPガス発電機2基の寄贈を受け、4月20日（水）、黒潮町役場においてLPガス発電機の寄贈式が行われました。

寄贈を受けた発電機は、停電時に自動的に発電する仕組みとなっており、連続4日程度使用できる機器となっています。

発電機は、旧鈴保育所と熊野浦集会所に設置しました。



寄贈式の様子



寄贈された発電機